

2024年度とうきょうすくわくプログラム活動報告書

施設名	ういず千住大橋駅前保育園
施設所在地	足立区千住橋戸町2-6
法人名	社会福祉法人彩保育会

1. 活動のテーマ

<テーマ>

フィジカルリテラシー

- ・運動への興味関心を高め、活動を通して体幹の育ちを促すと共に、子ども自身が考えて行動することや、そのことが自信へとつながること。
- ・他児からの刺激により遊び方を工夫したり、更なる探求心へとつなげること。

<テーマの設定理由>

園庭や屋上園庭を有する園で、日頃より体育活動には積極的に取り組む姿がある。しかし近年の子どもたちは体幹が弱く怪我が多かったり、指示に対する行動はできても自分で考えたものを自信をもって表現することを苦手とする子も多い。すくわくプログラムの活動を通して運動を更に楽しむこと、自分の考えや楽しみ方に自信をもって行動できるようになってほしいことから。

2. 活動スケジュール

10月～3月4歳児クラス、5歳児クラスで実施。各クラス毎に週1回、午前中45分間ずつ主活動の一環として取り組む。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・保育室で実施しテーブル、椅子などを片付けておく。
- ・鉄棒、フープ、跳び箱、玉入れの玉、体育マット、巧技台、ボール、縄跳び、床に引いたラインなどを使用する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・準備体操、ゲーム(フープ玉入れ、フープ取り、鬼遊びなど)で心と体をほぐす。
- ・鉄棒…ぶら下がり、跳びつき、体支え(つばめ、豚の丸焼き)、前回り、逆上がり
- ・フープ…ゲーム、グーパー跳び、ケンパー跳び ・ボール…ボール運び(1人、2人)
- ・跳び箱…のぼって跳び下りる、跳び乗り、跳び越し
- ・マット…前回り、横回り(えんぴつごろごろ)など器具用具を使用し、最初は指示通りに行い次第に子ども自身が考えた遊び方で行った。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

初めは講師になじめない子や鉄棒、跳び箱を怖がる子もあり、担任が傍につき見守りながら行った。『やっぱりできない』『〇ちゃんはじょうず』など消極的な姿勢の子もいた。しかし『〇ちゃんみたいにやってみよう』『僕は横向きでやってみる』など次第に自分の楽しみ方を見つけられるようになってきた。クラス活動においても『先生、鉄棒だして』とすくわくで行った活動を要求したり『見て出来るようになったよ』と言う声があった。個々に寄り添いながら『〇ちゃんのリクエストの鉄棒もしてみようか』と保育に取り入れたり、『〇君の跳び方は足を伸ばしているね』と認めていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

日頃、体育活動を苦手とする子もそうでない子も活動全般楽しむことができたことが、まず大きかった。1つの運動種目でも個々に課題の乗り越え方が違い、見ていた子ども同士で認め合い、面白がることから自分に取り入れたりといった姿が多かった。また、クラスの活動でも同じように意見を出し合いながら進めたり、課題に向かって頑張る友だちを励まし、達成を一緒に喜ぶといった姿から、大きな成長も感じることができた。